

2013年7月6日 13-17時

院内コース、手術室内で行う SED 実践セミナー

@大阪医科大学 報告書

①開催形態

開催協力部門：医療安全管理室、医療プロフェッショナル支援室

開催講座責任者：南敏明（大阪医科大学麻酔科学教室）

②インストラクター

コースコーディネーター

駒澤伸泰 大阪医科大学麻酔科学教室 MSSC

藤原俊介 大阪医科大学麻酔科学教室 医療プロフェッショナル支援室

インストラクター

駒澤伸泰 大阪医科大学麻酔科学教室 MSSC

藤原俊介 大阪医科大学麻酔科学教室 医療プロフェッショナル支援室

タスクフォース・コメンテーター

南敏明 大阪医科大学麻酔科学教室 医療総合研修センター

澤井俊幸 大阪医科大学麻酔科学教室

辰巳真一 大阪医科大学麻酔科学教室

③参加者名

学内 23 名

麻酔科医師 5 名

初期臨床研修医 5 名(1 年次 4 名、2 年次 1 名)

手術室看護師 13 名

#### ④コース内容と学習目標

	学習目標
講義	<p>①米国麻酔学会「非麻酔科医のための鎮静・鎮痛薬投与に関する診療ガイドライン」の概説</p> <p>②手術室における鎮静の問題点と経験のディスカッション</p>
カードを用いた シミュレーション	<p>各種鎮静、鎮痛薬の特徴と副作用のディスカッションを行う (薬剤を手術室内で使用するものを中心に)</p>
マネキンを用いた 緊急時気道管理ハンズオン	<p>呼吸状態の評価を意識づけ(呼吸パターン、回数、SpO<sub>2</sub>等)、酸素投与法、基本的気道管理(バッグバルブマスク、ラリンジアルマスクを始めとした声門上器具)の習得(物品の所在の確認も含めて)</p>
シナリオディスカッション	<p>術前リスク把握、準備、必要なモニタリング、投与時の評価等、緊急時対応を質問し、知識の再確認や整理 (手術室内での局所麻酔シナリオ)</p>
シミュレーション環境を用いたシナリオトレーニング	<p>中等度以上の鎮静を行う際のモニタリングと呼吸パターンの評価、過鎮静時の緊急時対応についてシミュレーターを用いてシナリオベースで訓練する(手術室内での局所麻酔シナリオを使用)</p>
グループディスカッション	<p>手術室内の鎮静に関する安全管理について参加者全員で討議  討議後、アンケートにて意見収集施行</p>

## ⑤開催風景

開会挨拶 南教授



気道管理ハンズオン





カードシミュレーション



## シナリオトレーニング



全体集合写真 講義前



シナリオ終了後の記念写真



## ⑤開催後のアンケート

名の受講者からの回答を下記に記す

### 個人の鎮静についての改善点に関するもの

薬剤投与間隔を調整

患者の呼吸回数だけでなく、呼吸パターンも観察

鎮静前評価を綿密に行う

いびきの問診を行う

モニターだけでなく五感を用いたモニタリングをする

### システムの改善点に関する感想

局所麻酔時の鎮静深度の評価と記録

緊急時の麻酔科等への連絡体制

緊急カート内の見直し(拮抗剤の常在)

モニタリングに対する取り決め

退室基準の明確化

## ⑥今後の取り組み

次回の公募を合わせた MSSC での開催は 9 月 21 日を予定している。インストラクターは藤原プロフェッショナル副室長、駒澤 MSSC 副室長と考えている。